

和

Wa

春
号

2019 Spring
Vol.51

- がん診療について
肺がんの治療・手術について
- チーム医療の活動紹介
認知症ケアサポートチーム（DST）
- 栄養だより
春の献立
- 専門外来のご案内
当院の看護外来について

『肺がんの治療・手術について』

呼吸器外科部長 **高濱 誠**

当センターは地域がん診療連携拠点病院としてがん治療に関する高度な医療を提供する責務を担っています。

当科では1995年開設以来約4000例の肺がん手術を行って来ました。2018年には肺がんを含む胸部疾患に対する全身麻酔下手術件数は470件と大阪府下で最多でした。今回は、当科で行なっている肺がん手術と最近取り組んでいる先端医療についてご説明します。

早期肺がんに対する完全胸腔鏡下手術とロボット支援下手術

従来肺がんの手術は、肩甲骨の周囲の肋骨の間を約15〜30cmほど切開し、開胸器を用いて肋間を広げて行う開胸術が行われて来ましたが、約18年前から内視鏡（胸腔鏡）下手術の器具が進歩し、また画像精度も向上したことで、胸腔鏡下手術が行われるようになって来ました。当科では10年前から胸腔鏡下肺がん手術を開始しています。胸腔鏡下肺がん手術は切開部分が小さく筋肉をほとんど切開しないため、術後のQOL（クオリティオブライフ・生活の質）改善や早期社会復帰が可能です。

当科の肺がん手術件数は年間180〜200件で全国でも有数の実績を誇っており、その内92%（2018年実績）が胸の中を直接見ることなく胸部に挿入したモニターだけを見て行う完全胸腔鏡下手術でした。



▲図1 創部写真 (脇腹)

5cm以下の肺がんのほとんどは完全胸腔鏡下手術で行っており、術後5〜7日程度で退院が可能です。（図1）また昨年、健康保険の適応が拡大されたことで肺がんに対して最先端手術支援ロボット『ダヴィンチ』を使用したロボット支援手術を行っています。大阪市内では初めてダヴィンチによる肺がん手術を行い、2019年4月時点で当センターが唯一の施設です。



▲手術支援ロボット『ダヴィンチ』

肺機能温存を考慮した形成術、局所進行がんに対する拡大手術、集学的治療

当科では肺の機能をできるだけ損なわないように血管や気管支を一度切り離し、病変を取り除いて再度血管や気管支をつなぎ合わせる気管支形成、血管形成術を駆使した手術を積極的に行っています。

大動脈や周囲臓器へ広がってしまった進行肺がん（局所進行肺がん）には総合病院の強みを生かし、他科（心臓血管外科、消化器外科、整形外科、耳鼻咽喉科など）と連携して、一般的には手術困難とされる症例に対して各種拡大手術療法を積極的にを行っています。また、診断時切除不能と判断された進行肺がんに対して、手術前に抗がん剤と放射線治療を行ってがんを縮小させた後に手術を行う術前導入療法も取り入れ、がんの根治に努めています。

当センターの手術術式に対して日本呼吸器外科学会のホームページおよび日本胸部外科学会のホームページで非常に高い評価を頂いており、その手術手技について紹介されています。

ハイブリッド手術室を用いた術中CTナビゲーションによる確実な縮小手術

微小肺がんに対しては肺機能温存を考慮した縮小手術が行われますが、がんを確実に切除するために手術室内で手術中にCT撮影を行ってどこを切開して、どの方向に進めば安全に病変部まで到達できるのかを確認（術中CTナビゲーションシステム）して完全に切除に務めています。（図2）

外来診療ではかかりつけ医となっていただけの地域医療機関の先生方と地域連携パスを導入することで、連携を密にして地域全体で患者さんに対して質の高い医療を提供することを目指しています。



Phillips社 Cardiovascular X-ray Allura XperCT FD20

▲図2 ハイブリッド手術室で使用するCT装置 血管造影撮影も可能

当センターが取り扱うがんの種類

肝がん	乳がん	胃がん	大腸がん	食道がん	肺がん・縦隔腫瘍
前立腺がん	膀胱がん	腎がん	尿路がん	精巣がん	血液腫瘍（白血病・リンパ腫など）
脳腫瘍	骨軟部腫瘍	頭頸部がん	子宮がん	卵巣がん	性腺外胚細胞腫瘍
小児がん	皮膚がん	眼腫瘍	原発不明がん	口腔がん	胆嚢がん・胆管がん 膵がん

●チーム医療の活動紹介

「認知症ケアサポートチーム(DST)」

認知症看護認定看護師 堀 治

我が国の認知症患者は2012年の段階で約462万人と言われ、2025年には700万人を超えると推計されています。65歳以上の高齢者の5人に1人は認知症ということになります。認知症は誰もがいずれは直面する病気なのです。

当院は高度急性期医療を行う地域の中核病院としての役割を担っています。当院に入院する患者さんにも、入院の契機となった病気以外に認知症を持つ方が増えています。

認知症の方は、病気による体調不良や環境の変化によって、点滴を自分で抜いたり、治療の途中なのに家に帰るといって怒り出すといったような、いわゆる認知症の行動・心理症状（BPSD）や、軽度の意識障害による興奮や混乱状態となり家族や医療者を悩ます状況が生まれやすくなります。その状況が長くなると、認知症が進行して元の生活に戻れない状態になりかねません。

まずは予防が第一です。入院当初からそういったリスクのある患者さんに対して、予防のための取り組みを行うことが重要となります。

病院職員は自身の専門知識をフル活用し頑張っています。そんな職員が、少しでも認知症の方の立場でケアを考え、認知症の方が安全に入院生活を過ごすことができるように手助けするのをサポートするのが私たち認知症ケアサポートチームの役割だと考えています。

病棟の看護師や医師とチームのメンバーで話し合い、認知症の方が穏やかに過ごせる環境やケアを共に考える場を設けています。

また全病棟を訪問し、ケアに困っていることはないか、計画したケアが適切に行われているかを確認し、必要に応じてアドバイスを行っています。患者さんや家族とも直接話をし、困っていることなどないかを聞いてアドバイスもしています。

認知症ケアサポートチームは、大切な家族である高齢者の方が安全に適切な医療を受け、できるだけ早く元の生活に戻れるように現場のスタッフをサポートしているチームです。



▲認知症ケアサポートチームのみなさん



春の献立

●●● 栄養部 濱浦星河

栄養だより

とっても簡単!

春の訪れを告げる食材にはたけのこ、山菜、ふき、さわら、鯛、甘夏、いちごなどがあり、店先に並び始めるとあたたかな春を感じ、心が躍ります。

新生活がスタートするこの時期、食卓に旬の食材を取り入れて、清々しい気持ちで春を迎えてみませんか？今回は春の食材を利用した当院の献立と、その中から簡単にできる一品をご紹介します。

●メニュー

- たけのこご飯
 - さわらの香り焼き
 - 春キャベツと桜えびの和え物
 - にゅうめん
 - いちご
- 総カロリー 624kcal
塩分 4.7g



●春キャベツと桜えびの和え物

〔材料 2人分〕

- 春キャベツ 150g
- 桜えび 5g
- うすくち 小さじ1強
- みりん 小さじ1/2

～作り方～

春キャベツはざく切りにし、耐熱皿に入れてラップをかけ、500Wのレンジで約2分加熱する。粗熱がとれたら桜えび、調味料を加えて和える。

～旬の食材について～

●春キャベツは水分が多く、葉がやわらかいのが特徴で、生で食べるのもおすすめです。ビタミンCやカリウム、食物繊維などの栄養素が豊富に含まれています。根元の切り口がみずみずしいもの、葉が鮮やかな緑色で張りがあるものを選びましょう。

専門外来のご案内

当院の看護外来について

看護師 趙 菜於美

「看護外来」とは、一定の時間と場所を確保し、看護職員が主導して生活に伴う症状の改善や自己管理の支援等を行うことを指します。

当院には、「糖尿病療養指導外来」「糖尿病透析予防外来」「ストーマ外来」「小児排泄指導外来」「経口抗がん剤相談外来」「移植コーディネート外来」「CAPD外来」「リンパ外来」「患者支援外来」「緩和ケアチーム外来」「助産師外来」「周術期外来」などの看護外来があり、認定看護師等の専門的知識・技術を有する看護師や助産師が、医師や他職種と連携して療養生活の質を向上するための支援を行っています。

患者さんやご家族から、療養生活上の相談を受けアドバイスしたり、必要があれば院内だけでなく地域の在宅医療従事者や、介護従事者と連携をはかり、スムーズに適切な在宅支援を受けることができるようにしています。

平成29年10月には、患者さんのプライバシー確保と待ち時間の短縮を目的として、3室の看護外来ブースが設置されました。平成30年度の利用件数は3,393件でした。侵襲的な検査や処置・大腸ポリープ切除入院などの説明や、初診患者さんへの問診、心不全地域医療連携パス適応患者さんへの生活指導、その他の在宅における療養に関する医療的な指導、治療についての意思決定支援、治験に関する説明など、通院患者さんが安心して治療を受けることができるように様々な支援を行っています。



今回は当院の看護外来について簡単に説明しました。

次回からはそれぞれの看護外来で活躍している看護職員から実際の支援内容や地域との連携などについて紹介していきたいと思っております。

お知らせ&ニュース

●詳細は当院ホームページをご覧ください。

イベント 第7回「認知症にはならへん!なるかな?なったらどうしよう!」

住み慣れた地域で元気で過ごしていくために、認知症の方の気持ちや認知症予防・介護予防について考えてみませんか。

- 日時／平成31年5月21日（火）14時～
- 場所／さくらホール



大阪市立総合医療センター

3Hの理念

Heart For Public Service

広く市民に信頼され、地域に貢献する公立病院をめざす。

Humane

人間味あふれる温かな医療を実践する病院をめざす。

High-technology

高度な専門医療を提供し、優れた医療人を育成する病院をめざす。

■発行責任者：大阪市立総合医療センター
〒534-0021

大阪市都島区都島本通2-13-22

地域医療推進委員会委員長 山根 孝久

<http://www.osakacity-hp.or.jp/ocgh/>